

危険な生きもの

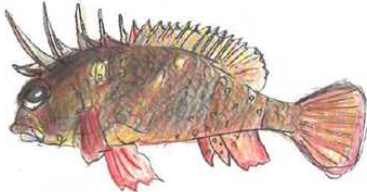

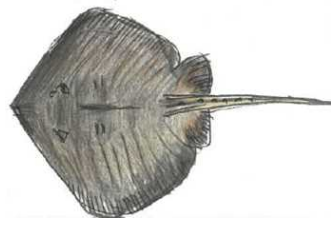
香川県立屋島少年自然の家

危険な生きものに対するもっとも安全確実な方法は「近寄らないこと」である。





しかし、自然をより楽しもうとしたら、なかなかそうも言ってもらえない。

危険なものを知り、何が危険なのか、どこまで危険なのかを見極める目を養おう。

1 海の危険な生きもの

ハオコゼ(全長11cm)	
	<p>浅瀬の岩礁や海藻の中などによくかくれている。潮だまりにいることも多い。</p> <p>背びれのとげすべてに毒をもっている。</p> <p>波打ちぎわの海藻のたまり場を素足のまま歩いたり、海藻の繁みに手を入れたりしたときなどによく刺される。</p> <p>軍手、運動靴を着用して予防する。</p>
ゴンズイ(全長25cm)	
	<p>岩だなや海藻の繁みに潜み、夜間に活発に活動する。6cmほどの若魚までは、だんご状に群れてくらし、ゴンズイ玉と呼ばれる。</p> <p>背びれと胸びれに1本ずつ毒のあるとげがある。</p> <p>ゴンズイ玉を素手ですくったりしない。海岸に打ち上げられている死魚にも要注意。</p>
アカクラゲ(かさの直径9~12cm)	
	<p>早春から初夏にかけて見かける。</p> <p>触手に毒がある。</p> <p>素手で触ったりしない。</p>
クサフグ(体長約10cm)	
	<p>猛毒を持つので絶対に食べてはいけぬ。</p> <p>えさの横取りがうまく、釣り人のじゃまをして嫌がられる。</p> <p>釣り上げられるとからだを膨らませる。</p> <p>5~8月の新月や満月の日に大群で岸に押し寄せ産卵する。</p> <p>かむ力が強いので、指をかまれないように気をつける。</p>
エイ(全長40~100cm)	
	<p>尾のつけ根に鋭い毒のとげを1~3本もっている。とげはのこぎりのようにぎざぎざになっていて、刺されると抜けない。</p> <p>死んでいても毒はききめがあるので、網にかかったアカエイが浜辺におかれていることがあっても、素手で触ってはいけぬ。</p>
ウミケムシ(全長5~10cm)	
	<p>ゴカイの仲間である。体の両側の剛毛は普段は後方に寝かせており、つついてやると剛毛をパッと毛羽立てる。この剛毛は中が空になっており、毒液がたまっている。</p> <p>刺された際にはセロハンテープ等で毒針をそっと取り除き、流水で洗い流す。</p> <p>触ってはいけぬ。</p>

2 山の危険な生きもの

ニホンマムシ(全長45~70cm)	
	<p>太くて短い三角頭のヘビ。 4月~9月にかまれることが多く、おもに手足をかまれる。小型でおとなしく、自分から攻撃してくることはない。かまれるのは、かくれているのに気づかないで近づいたり、踏んだり、つかんだりしたときで、50cm以内に近づかなければ安全である。 登山靴や長靴をはいていれば防ぐことができる。</p>
ヤマカガシ(全長60~11cm, 最大1.4~1.5m)	
	<p>人の気配を感じるといち早く逃げるおとなしいヘビ。 かまれるのは、あやまって踏んだり、つかんだりした場合で、ヤマカガシのほうから攻撃してくることは考えられない。 深くかまれてもすぐには症状が出ず、体質によっては放置しておいて手遅れになることもあるので、必ず医師の診断を受けるようにする。</p>
スズメバチ・アシナガバチ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・オオスズメバチ(体長27~37mm) スズメバチ中最大で攻撃性も強い。巣の所在がわかりにくいので、よく見かけるような場所では、注意が必要。幼虫のえさにするため集団でミツバチや、ほかのスズメバチをおそう。 ・キロスズメバチ(体長17~24mm) 攻撃性が強く、都市部にも生息する。 ・アシナガバチ(体長11~26mm) スズメバチより攻撃性が弱く、巣を刺激したり、手でハチを払ったりしなければ、刺されることはあまりない。刺されると痛みと腫れを引き起こし、普通は数日で治るが、アレルギー体質になっている人は全身症状を起こすこともあり、注意が必要。刺激してはいけない。
ムカデ(体長120mm)	
	<p>夜行性で昼間は落ち葉や石、朽木の下などにいる。 夜間、家屋内に入ってくることもある。靴や洋服の中にかくれていることもあるので、着用時には点検するようにする。</p>
ドクガ(幼虫 40mm, 成虫 10~15mm)	
	<p>幼虫の食草は、クリ、サクラ、ウメ、バラなど 100 種以上ある。幼虫は5~6月に多い。成虫は6~8月にかけて出現し夜間灯火に集まる。スプレー殺虫剤を使うともがいて毒針毛をまきちらすのでよくない。</p>
マダニ(体長 2~3mm)	
	<p>マダニは、屋外に生息する。刺された場合腫れがひどく強い痒みを伴う。伝染病も媒介するため注意が必要。肌の露出を少なくし、活動後は刺されていないか確認が必要。</p>
イノシシ	
	<p>常に神経質で警戒心の強い動物である。普段より見慣れないものなどを見かけると、それをできるだけ避けようとする習性がある。非常に突進力が強く、不用意に接近した人間を襲うケースも多い。<u>出会った場合は刺激せず、ゆっくりその場を立ち去る。</u></p>
ハゼノキ	
	<p>ウルシ科の植物。この木からロウをとるために栽培されていた。実は黄褐色で光沢があり、1cmほどになる。また暖かい地方における優れた紅葉樹なので観賞用に植えられる。ウルシオールという有毒成分が含まれ、皮ふに触れるとかぶれる。その程度は個人差が大きく、ひどい場合は木の下を通っただけでかぶれることもある。ほかにヤマウルシやツタウルシがある。</p>

※ この他にも、夏のアブやブヨに噛まれることもあるので注意が必要。